

令和7年度一般財団法人富山市大沢野健康文化推進財団事業計画

当財団は、富山市大沢野健康福祉センター及び大沢野老人福祉センターの指定管理者として、市民の健康増進と福祉活動の機会と場所を提供し、もって市民の健康意識の高揚及び福祉向上に資することを目的に、引き続き、快適で安心・安全、お客様から喜ばれる施設として管理運営に努めてまいります。

令和6年度は、長年の懸案となっていた施設の熱源の更新及び屋根部笠木等の改修工事に伴い、10月から2ヶ月間の休業、プール・バーデゾーンはさらに1ヶ月間の休業となりましたが、令和7年度は通年営業を予定しており、コロナ禍前の利用者数を目指して集客やサービス向上に取り組んでまいります。

一方、燃料費を始めとした諸物価の値上げラッシュ、施設の老朽化に伴う修繕費の増嵩及び賃金水準の上昇に伴う人件費の増加、さらには働き方改革と人手不足に伴うスタッフの確保や労働環境の改善への対応も求められており、経営環境は一層厳しさを増しております。

こうした中、令和7年度からは、経営改善などの一環として、4月から11月までの閉館時間を1時間繰り上げ(21時閉館の通年化)、新たに1月1日を休館日とするほか、ビジター入浴料金及び法人利用券利用者負担額の引き上げなどを行います。

さらに、これまで培ってきたノウハウを活かした柔軟なサービス展開や時季に応じたイベントの実施、各種キャンペーンによる新規会員の獲得などにより、利用者及び収入の増加に努めるとともに、コスト意識を高めて事業の効率化を進め、魅力ある運営と健全経営を目指してまいります。

また、令和6年度に新たに富山市と連携して実施したフレイル(虚弱)予防事業、トレーニングマシンによるパワーリハビリ教室、高齢者の外出促進や生きがいをづくりを目指したシニアライフ講座の開催なども年間を通して取り組み、施設の活性化に努めてまいります。

1. 会員の増加策

例年実施している春の新規入会キャンペーンについては、1ヶ月前倒して3月から実施し、入会特典の付与とともに多様な広報活動により、会員の早期獲得を図ってまいります。

また、年間を通して会員のメリットを広報したり、更新時におけるフォローを工夫したりすることで、会員の増加及び退会者の抑制に努めてまいります。

2. ビジター利用の増加策

- ① 「7・8月を除く毎週日曜日、小学生以下半額の日」の企画は好評であり、子育て支援にもつながることから、引き続き実施してまいります。
- ② プール利用のビジターを対象とした「10回利用して、1回無料にするスタンプカード」及び「7・8月利用者への平日プール半額利用券」を引き続き実施し、リピート客の増加につなげます。
- ③ LINE 登録者の増加を図り、情報発信に努めます。
- ④ 託児サービスとセットにした企画の継続のほか、新たな企画も検討実施しながらビジターの増加を図ります。

3. 健康・介護予防と生きがいづくり事業

超高齢社会を迎え、市民の健康づくりや介護予防、生きがいづくりへのニーズが年々高まっており、当施設の人材や機能を活用した事業を実施してまいります。

- ① 健康増進事業
 - ・トレーニングスタジオや屋内プールを利用した運動指導及びレッスンの実施
- ② パワーリハビリテーション（パワリハ）事業
 - ・要支援1・2、介護予防が必要な方を対象とした事業の実施
 - ・市直営パワリハ修了者を対象とした事業の実施
- ③ 健康情報の収集と提供
 - ・健康、運動情報紙の発行
 - ・ホームページによる情報の提供
- ④ 健康イベントの開催
 - ・健康で安心して豊かな生活を送るための「月1イベント」の開催
- ⑤ ニーズに即した事業の実施
 - ・水中ウォークやジュニアスイミング、健康教室の開催
- ⑥ 受託事業の実施
 - ・健康教育事業等の実施や講師の派遣

⑦ フレイル予防のためのプログラムの実施

- ・健康チェック、体力測定、軽運動やマシンを使ったトレーニング指導と自主運動、効果測定など一連のプログラムによるフレイル予防教室の実施
(*フレイルとは、「病気ではないけれど、年齢とともに、筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態」のこと。しかしフレイルは、早く介入して対策を行えば元の健常な状態に戻る可能性があると言われる。)

⑧ シニアライフ講座の開催

- ・陶芸(新規)、民謡、スマホ教室、男性料理教室、ウォーターウォークの開催

⑨ 託児サービスの実施

- ・子育て応援施設として、安心して利用できるよう保育士を配置し、託児サービスを実施します。

4. 富山市大沢野健康福祉センター・大沢野老人福祉センターの管理運営

指定管理者として、市と緊密に連携しながら、基本協定書及び仕様書等に基づき、誠実かつ適切に管理運営します。

- ① “たのしい。やさしい。きもちいい。”をキャッチフレーズにウインディとして施設の魅力の維持・向上に努めます。
- ② 適正な施設管理を通じ、環境負荷の低減に努めます。
- ③ 「お客様の意見」の実施によりニーズを把握し、お客様のマナー向上や施設環境などの改善に努めます。
- ④ 高齢利用者の増加に伴い、入浴時を始めとした多様な場面で事故防止のための啓発を実施します。
- ⑤ エントランスやロビーを利用したイベントの企画実施や個展などへの貸出により、施設の活用を図ります。
- ⑥ 市主催の生きがいづくり講座や多世代交流イベントにより、施設の利活用とにぎわいづくりにつなげます。
- ⑦ 職員の意識啓発、接遇や救急救命などの研修を実施し、職員のモチベーションやスキル向上を図ります。

以上

令和7年度 収支予算書（正味財産増減計算ベース）

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

一般財団法人 富山市大沢野健康文化推進財団

（単位：千円）

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	2	2	0
基本財産受取利息	2	2	0
② 事業収益	126,471	111,346	15,125
入会金収益	234	234	0
会費収益	58,000	47,216	10,784
利用料収益	58,039	54,092	3,947
分担金収益	5,582	5,582	0
手数料収益	3,291	3,009	282
物品等売上収益	1,325	1,213	112
③ 受取受託金	103,881	111,632	△ 7,751
受取受託金	103,881	111,632	△ 7,751
④ 受取補助金等	113,170	98,791	14,379
受取補助金	113,170	98,791	14,379
⑤ 雑収益	172	193	△ 21
受取利息	1	1	0
雑収益	171	192	△ 21
経常収益計	343,696	321,964	21,732
(2) 経常費用			
① 事業費	318,255	296,125	22,130
給与手当	28,014	18,321	9,693
賃借料	52,461	46,741	5,720
法定福利費	9,455	9,114	341
厚生勤労費	1,372	1,305	67
通勤費	1,675	1,666	9
退職給付費用	696	693	3
福利厚生費	606	606	0
交際費	122	122	0
旅費	11	11	0
通信運搬費	1,127	1,101	26
消耗品費	9,951	9,998	△ 47
修繕費	14,847	14,847	0
印刷製本費	209	209	0
燃料費	42,786	39,597	3,189
光熱水費	78,676	76,265	2,411
医薬材料費	442	442	0
使用料賃借料	7,772	7,288	484
使賄材料費	204	204	0
保険料	451	443	8
食糧費	48	48	0
謝礼金報償費	7	7	0
広告宣伝費	2,365	2,097	268
公租公課	1,506	1,582	△ 76
公負担金	132	132	0
減価償却費	1,827	1,860	△ 33
委託手数料	58,461	58,485	△ 24
手聞回数	1,133	1,133	0
新聞図書費	351	328	23
新物品等仕入費	1,312	1,235	77
研修費	236	245	△ 9

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
② 管理費	25,441	25,839	△ 398
報 酬	9,783	9,593	190
給 与 手 当	2,695	2,655	40
賃 金	5,435	6,022	△ 587
退 職 給 付 費 用	183	180	3
法 定 福 利 費	2,948	3,017	△ 69
厚 生 費	90	105	△ 15
通 勤 費	185	191	△ 6
福 利 厚 生 費	66	66	0
通 信 運 搬 費	110	110	0
消 耗 品 費	112	112	0
修 繕 費	153	153	0
燃 料 費	870	870	0
光 熱 水 費	1,477	1,477	0
保 險 料	42	42	0
謝 金 報 償 費	26	26	0
公 租 公 課 費	50	50	0
負 担 金	80	80	0
委 託 料	167	121	46
手 数 料	969	969	0
經常費用計	343,696	321,964	21,732
評価損益等調整前当期經常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	0	0	0
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	8,646	7,983	663
一般正味財産期末残高	8,646	7,983	663
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	2	2	0
基本財産受取利息	2	2	0
一般正味財産への振替額	△ 2	△ 2	0
一般正味財産へ振替	△ 2	△ 2	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	30,000	30,000	0
指定正味財産期末残高	30,000	30,000	0
III 正味財産期末残高	38,646	37,983	663